

ごあいさつ

ふるさとの山は美しい。

いま、みずみずしい潤いに満ち、そして遠い過去を生きてきた山々。いったいどれだけの人が眺め親しみ、想いを託してきたことだろう。そんな山の情感にわたしは心ひかれる。

1980年～2024年に制作した作品を展示しました。

進歩がなく恥ずかしいものばかりですが、ご高覧頂きたくご案内申し上げます。

※誠に勝手ながらお祝いの品物等は辞退させて頂きたく
お願い申し上げます。

勝 田 輝 雄



「山 へ」

雲肌麻紙 岩絵具

「文殊涅槃図」

私の家の近くにあるフェニックス大橋を少し行くと、右肩からいきなり奇妙な人型の山容が現れる。広い額の下の高い鼻。それから横顔にかけて落ち込むたっぷりした頬。がっしりした頤。そしてそれらを支える太い頸。私はこれを勝手に文殊涅槃図と呼んできたが、勝田輝雄はこの五百米もない古里の文殊山を繰り返し描いてきた。

サント・ヴィクトワール山はセザンヌの古里プロヴァンス郊外にある岩山である。彼はこの山を生涯にわたって八十余点もの作品にした。私が息を呑みかつ絶句するのは、彼等がさして高山でも名山でもなかった山々にあくまで取り憑き、我を忘れて、飽きなかったことである。

定 道 明